

平成27年度

すずかけの家事業計画

まえがき

作今、国は「地方創生」を唱え、例えば社会福祉協議会も「小規模支えあい」＝「日常生活圏域でのコミュニティ」化に力を入れている。市の高齢政策課は、特養待機者は解消されたとし、今後は地域密着型サービスに力を注ぐ方針で、小規模多機能事業所にも、意向調査をしている。

我々の次元でも、医療の働きかけで多職種協働が標榜され、積極的な若手世代の力で事業体を超えたセミナーが活発に行われだした。

「小規模多機能型居宅介護」が地域包括ケアの根拠地としての出番が、客観的に求められているのではないか。

本人家族の意向の把握⇒より良いケアプランづくり

高齢者が地域で生きていくとき、いろんなできごとがある。「訪問介護」では支えきれないことが多い。事業者は、今何が求められているかの確に把握し、ケアプラン化していく。そのために、「総合マネジメント体制強化加算」も利用し、介護職員⇔ケアマネジャー⇔介護職員のチーム力で意向をしっかり把握したい。

重度化した方を支えていく

小規模多機能である限り、在宅中も見据える支援体制が必要である。本人家族の心配に応え、夜間を始め、柔軟かつ即応できる職員体制を追求していく。

利用する方が心地よい過ごし方ができるように

立派なことを言っても、すずかけが楽しみでなければ意味がない。日常、行事・おでかけ等の非日常が充実できる豊かなプログラムを工夫する。今年から行う「本人の希望をかなえる企画もその一つである。

地域の拠点へ

市（高齢者支援センター）との協力で「ゆずカフェ」を始める。これを篠原流で行いたい。篠原ひいては牧野が、見守り・支えあいの地域となるよう、地域向けの行事、地域の行事への参加、利用者以外の「住民」への「見守り・相談」活動を活発に行う。また、地域ケア会議などに積極的に参加していく。

より活発なセミナー・研修を

- ① 施設内研修を職員の交代講師を立て、計画的に行う
- ② 職員の希望するテーマを見極め、良質な内容のものを活用する
- ③ 同職種・多職種の研修セミナーを主催も含め、積極的に行う

自然に利用者が増えるように

上記を行うことで地域社会に認知され、結果利用者増に繋がっていく。